

オープン・アカウント

OPEN ACCOUNT アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム (FNA) ニュース・レター

特集：ビルマへの開発援助本格化？

2001年12月 第9号

ビルマへの開発援助をめぐる問題点：人権と環境の視点から

大橋環（おおはし・たまき=メコン・ウォッチ）

聞き手とまとめ：FNA 運営委員会

第9号の目次

- 1…対ビルマ援助をめぐる問題点
- 6…ビルマ・フォーラムのご案内
- 7…ADBに関する最近の動き
- 9…活動紹介・参加報告
- 11…事務局から
- 12…入会のご案内



国際社会はビルマに対する大規模な経済援助を停止している。しかし、アジア経済金融危機が一段落し、大メコン圏開発構想が再始動する中で、ビルマへの援助本格化の動きが各方面から出はじめている。タイ政府の後押しによる道路交通網の整備や、中国政府の援助によるメコン河の航路開発がそれである。

日本政府はこれまでも国際社会の流れにさからって「人道援助」の名のもとにラングーン空港建設などに経済援助を行なってきたが、今年二月ジャパン・タイムズが、水力発電所の補修に大規模な政府開発援助 (ODA) が拠出される可能性があるとして報じた。また、ビルマ政府筋の情報は、アジア開発銀行 (ADB) がビルマへの開発援助をまもなく再開するとしている。

対ビルマ開発援助を考えると、いったい何が問題となるのか？FNA では、メコン・ウォッチの大橋環さんに人権と環境の視点からお話を伺った。

FNA：まず、大橋さんがビルマに関心を持ったきっかけについてお聞きしたいんですが！

大橋さん：もともと人権問題に関心がありました。米国の大学を卒業して、帰国後、人権に関係するNGOを探していたときに、たまたま奈良で「日本ビルマ救援センター」という小さなNGOを運営している夫婦と出会いま

した。そのときはビルマと言えば、アウン・サン・スー・チーさんの名前くらいしか知りませんでした。彼女がノーベル平和賞を受賞した理由すら知らなかったんです。それで、その夫婦からいろいろなことを聞いて、人権に関心のある私がビルマという国の人権問題を知らなかったことをすごく恥ずかしく感じました。そして、「このNGOの活

動を手伝いながら勉強しよう」と思い立ちました。日本で大学院に入学して修士論文を書くときも、ビルマの人権問題のひとつである、女性の人身売買について書きました。論文を書くためにタイ・ビルマ国境へも行って、ビルマの難民の女性と会いました。それ以来、ビルマに関する活動を続けています。

FNA：大橋さんがこれまでにされてきた活動には、どんなものがあるんですか？

大橋さん：日本ビルマ救援センターの活動のひとつは、毎年タイ・ビルマ国境にある難民居住地域を回り、そこで作っているバッグなどの小物を日本で売り、その収入を送金することでした。大学院卒業後も一年間は関西にいたので、週末には活動を手伝いました。その後、東京に移ってからは、週末に在日ビルマ人の方々と関わる活動をしました。でも、やはりタイで NGO 活動をしたいと思い、1999 年にチェンマイにある IMAGES ASIA という NGO に加わり、ビルマ女性の人権状況を調査する仕事を始めました。

FNA：「調査」といってもなかなか難しいのではないですか？

大橋さん：簡単ではないですね。そのとき私が調べたのは、タイ・ビルマ国境ではなくて、中国・ビルマ国境の女性たちでした。ビルマには多くの民族が住っていますが、その地帯では主にカチン族が暮らしています。

FNA：その調査を行なったことで、大橋さんのビルマに対する考え方に何か変化がありましたか？

大橋さん：基本的な考え方自体は変わっていないと思います。今でも、直接影響を受けている人たちの声が大切だと考えていますから。大学院の修士論文でも、国際人権法をつくる過程で、実際に人権侵害を受けている人たちの視点や参加が必要だということを強調しました。ですから、そういう意味で基本的な考え方は変わっていません。

もちろん、人々がいる場所や状況によってその人々の視点や考え方も変わります。例えば、ビルマ国内にいる女性の状況と、タイの難民キャンプにいる女性の状況や日本やアメリカに難民として住んでいる女性の状況は全く違います。彼女らの視点や考え方が変わってくるわけです。その意味では私も様々な状況を見ることによって、視点が広がったと思います。そして、ビルマの人権状況に対する理解も少し包括的なものになった気がします。

FNA：タイでの NGO 活動を経て、帰国後もビルマの人権に関する活動をされているわけですが、現在特に力を入れていることがあれば教えてください。

大橋さん：今は、日本の ODA（政府開発援助）案件である「ハルーチャン第二水力発電所」の問題に関心があります。これはすでに存在している発電所の修理に ODA を出す

ということで、新しい発電所をつくるよりも環境的ダメージは少ないんですが、ビルマの場合の問題は人権侵害です。中でも、強制労働が非常に深刻です。

今のビルマでは軍事政権が力を持っており、人々の日常生活もすべて監視されています。ですからODAを出しても、修理がどのように行われるか、強制労働として人々がかりだされることがないのか、周辺住民に影響がないのかなど、全く分からないんです。ビルマで強制労働などの人権侵害があるという証拠は存在しているので、ある程度の予測はできます。こういった事態を防ぐには、いろいろ手段が必要です。日本の外務省も一応は、「状況を見ながら判断します」と言いますが、実際、現地の状況を知るだけの情報はあまり出てきません。

電気の供給は人々の生活に欠かせないものですから、外務省はこの案件を「人道援助」と位置付けています。しかし反面でこのプロジェクトにより引き起こされる人道上の問題、つまり人権侵害があり、その可能性への対処は不十分です。そこで私はそういった問題点について得た情報を日本政府に提供し、どう対処するのかを問いかけたり、こちらから提案を出したりする活動をしています。

FNA: バルーチャン第二水力発電所は12月に福岡で行なわれるスピーキング・ツアーのトピックでもありますが、この発電所について、もう少し詳しく教えてください。

大橋さん: これはもともと日本の戦後賠償でつくられた発電所で、1960年に稼動し始めました。日本政府にとって最初の戦後賠償案件です。ですからビルマと日本の歴史の中ではとても重要なプロジェクトだと言えます。維持したいという思いもあるでしょう。

でも、発電所周辺の村には電力が供給されていないそうです。大体は首都のヤンゴンやマンダレーなどの大都市に送電されています。

FNA: それでは「人道援助」という根拠がなくなってしまうですね。そのほかにも問題があるんですか？

大橋さん: いろいろあります。私はその中でも、先程も触れた強制労働の懸念が一番大きな問題だと思っています。例えば、発電所の安全確保ということで周りに政府軍の部隊が三つ駐屯しています。こうなると、部隊の使命は、地域住民への負担、例えば修理の手伝いや物資の運搬を徹底させることだと簡単に想像できます。実際にこのような命令がバルーチャン第二水力発電所に対して出されたかどうかは確認しなければなりません。しかし、強制労働の問題はカレニー州全土で未解決なので、発電所補修に関して起こらないとは考えにくいんです。

強制労働以外にも地雷の問題や農民の取水問題が指摘されています。カレニー族の反政権組織の攻撃を防ぐために、地雷が発電所の周りに設置されていると聞いています。しかし地雷の被害にあっているのは、実際には周辺の村人だそうです。また、1998年に干ばつがあり、川の水を都会に電力を送る発電所に優先して使用するので、発電所の周辺の農民が農業用の取水を制限されたこともあって聞いています。

FNA：バレーチャンの件も、ビルマ自体の民主化の問題と関係してくるでしょうね。

大橋さん：もちろんそうです。ビルマ国内には、軍事政権と市民との対立、ビルマ族と他民族との対立、宗教上の対立などいろいろな対立があって、それぞれのグループに関わる人々が異なった視点や考え方を持っています。ですから、単に民主化が進めばいいという話ではなくて、どう民主化されていくかが課題だと思います。

例えば、同じビルマ国境でも、タイ、インド、バングラデシュとの国境地帯では、それぞれに少数民族などを代表している組織がかなりたくさんあります。これらの組織も以前はビルマからの分離・独立を主張していましたが、最近は連邦政府があり、きちんと少数民族の権利を認めるような国になればそれでもいいと言っています。だからアウン・サン・スー・チーさんやNLDは、民主化のためには1990年に行われた選挙で選ばれた人、現在の軍事政権、少数民族が共に話し合わないと、きちんとした民主化は行なえないと主張しています。

FNA：最後に12月のスピーキング・ツアーについて、簡単にお話をお願いします。

大橋さん：東京ではビルマの現状を日本のみなさんに知らせることを目的にしています。そして、日本のODAや投資によってビルマの人々にどんな影響があるのかを、主に人権と環境の観点から考えたいと思っています。タイミング的にはバレーチャンが問題になっているので、この件に焦点を当てて、日本社会・日本政府の責任を問うことにもなると思います。ある程度、悪影響が予測できるときに、もし出すとしても責任のあるODAの出し方や、ODAをめぐるもう少し一般的な問題についても考えたいと思います。

東京では三つの案件を取り上げる予定です。一つは先程のバレーチャン水力発電所です。カレニー族出身で、バレーチャンの状況に詳しい人呼びたいと思っています。

二つ目の案件は、タサーン・ダムです。これはサルウィン川で現在進行している大規模ダム建設です。建設はタイ企業が中心ですが、実施可能性調査（フィージビリティ・スタディ=F/S）は日本の会社が行いました。調査段階でもいろいろな人権侵害の証拠が出てきているので、このような大規模な開発を行うときに、最初の段階だけでも、どんな人権・環境問題が起きているかということを知ってほしいと思います。

三つ目はヤダナー・ガス・パイプラインです。これはすでに終了した案件ですが、タイのNGOが何年もかけて情報を集め、関係者にもインタビューをして、人権と環境に関する問題が大きいことが明らかになりました。そこでプロジェクトを実行した米国企業に対して訴訟を行い、現在係争中です。その裁判を通じて、またいろんな別の情報が出てきています。特に企業側の情報では、強制労働や強制移住の問題に気付きながら計画を進めたことが分かってきました。ただ、責任はビルマ政府にあるという判断で、企業側には無罪の判決が出ました。現在、控訴によって裁判が続いています。

このように東京では、すでに終了した案件と進行中の案件、ODAによる案件と民間投資による案件と様々なタイプの案件を取り上げます。タサーン・ダムとヤダナー・ガ

ス・パイプラインは民間投資による建設です。でもバレーチャンと共通する問題がある。タサーンには主にシャン民族がいて、シャン民族の女性でいろいろ調べている人がいるので、その人を呼びたいと思っています。ヤダナーはカレン族・モン族がいますが、カレン族で詳しい人がいます。それから訴訟に関わっている弁護士。実際に関わって情報収集している現地の人たちの声・意見・経験を日本で情報提供することを考えています。

こういうことはメディアにあまり取り上げられませんし、ジャーナリストも入れない地域です。普段あまり触れられないところを日本に持ってくる感じですね。企業関係者などを招くことも考えています。今回の企画ではいろんな視点を取り上げたいと思っています。外務省や、できれば米国大使館関係者なども呼びたいですね。米国と日本のビルマに対する外交政策は似ている点もあれば違う点もあって、比較するといいと思います。また、企業の説明でよく、「ビルマのことを考えて投資する。ビルマ人のためになる事業をやりたい」と聞きます。実際そう考えている人もいると思いますので、その視点も出せるといいと思います。本当にみんながビルマのために投資をしたり、ODAを出したりしているなら、それなりに合意できる点もあるのではないのでしょうか。お互いの問題点も取り上げれば、もう少し包括的な理解が生まれてくるのではないかと思います。

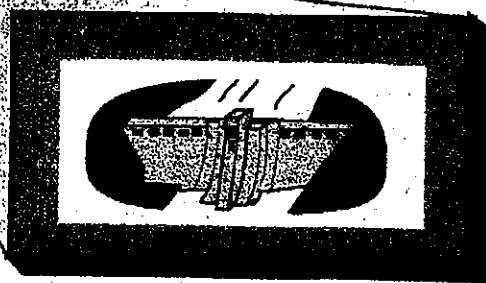
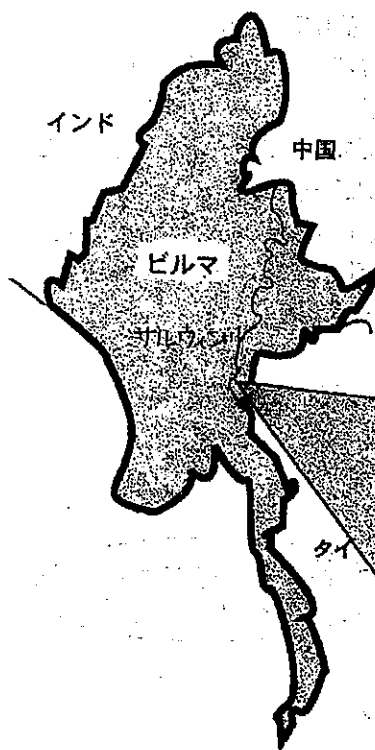
FNA: 大橋さん個人としては、どんなことを期待しているんですか?

大橋さん: 理想的には、参加者が現地の声を聞いて、今のやり方を考え直さないといけないと感じてくれたらいいなと思います。なかなかそうはならないのが現実ですが。

もう一つは、タイ・ビルマ国境にいる人たちは他の国に行く機会があまりないので、来日することで、別の制度・民族・考え方・文化に触れて自分たちの状況を違った視点から見るチャンスにしてもらいたいですね。

一番大きな目的は日本の市民一人ひとりに、日本政府の責任を問うべく自分たちの意識を高めてもらうことでしょうね。その意識が行動に反映されるといいと思います。日本政府の政策はある程度は日本の市民の意識の反映ですから、市民の意識が高くなれば政府の政策の改善もなと思います。

FNA: 今日はどうもありがとうございました。



開催間近！～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆

ビルマの人権と開発を考えるフォーラム

～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆～☆☆ 12月23日

ビルマ（ミャンマー）を流れるパルーチャン川に 1960 年日本の戦後賠償によって水力発電所が建設されました。その発電所の補修工事費として、今、日本政府から 30 億円とも 35 億円とも言われる政府開発援助（ODA）が拠出されようとしています。

しかしこの発電所をめぐるのは、人権・環境面での問題が指摘されています。

私たちの税金でつくられたこのダムをめぐる、一体何が起きているのでしょうか？

民主化への動きが強まるビルマは、今どのような状況にあるのでしょうか？

「少数民族」と呼ばれる人々は、どのような思いを持っているのでしょうか？

この水力発電所や「タサーン・ダム」について調査を行なっているビルマ出身のお二人をお招きして、お話を伺います。私たちとビルマがどうつながっているのか、いっしょに考えてみませんか？

● ビルマの人権と開発を考えるフォーラム

と き： 12月23日（日）午後3時～5時

と ころ： 福岡市人権啓発センター「ココロン・センター」研修室

（地下鉄中洲川端駅下車すぐ博多リバーライン・リバーサイト 10 階）

参加費： 一般 600 円 共催団体会員 400 円（逐語通訳付）

ゲスト： テディー・フリー氏：1990 年のビルマ総選挙でカレンニー州から当選。亡命議員が設立した「議員連盟」の代表。カレンニー州ロイコー出身。

サオ・タイ氏：「地球の権利インターナショナル」チェンマイ事務所勤務。

タサーン・ダムをめぐる人権・環境問題を調査している。シャン州出身。

主催・問い合わせ：「ビルマ・フォーラム」実行委員会（〒815-0071 福岡市南区平和 1-6-1

「びおとーぶ」内、tel/fax (092) 526-9620、E-mail biochan@lily.ocn.ne.jp）

共催：ADB福岡 NGO フォーラム、債務と貧困を考えるジュビリー九州

日本の援助で建設した
ビルマのダム

しかし、そこには
様々な問題点が...

ビルマ出身のゲストを
招いて話を聞きます！

☆☆☆☆ ADB に関する最近の動き ☆☆☆☆

ADBに関する最近の動きをまとめてお伝えします。詳細は各項目末尾の連絡先まで。

1) ビルマとADBの微妙な関係

ADBのビルマに対する新規融資は1986年以来停止されている。しかし、日本政府によるパルーチャン水力発電所補修への援助に歩調を合わせるかのように、各方面からADBによるビルマ経済援助を期待する声があがっている。

まず、ビルマの政府系広報誌『ミャンマー・タイムズ&ビジネス・レビューズ』（7月16-22日号）は「ADBからの援助再開近づく」という見出しで、ADBのビルマ援助再開が間近いとする政府高官の談話を伝えた。同紙によると、ADBの職員が定期的にビルマを訪れ、ADBの2001-2003年度の対ビルマ援助計画中にも融資・技術援助や他の援助機関との協調融資の可能性について触れられているとのことである。

また、9月16日付タイ『バンコク・ポスト』紙は、9月中旬にタイ・ビルマ国境のタイ側の町メー・ソットを訪れたADB代表団に対して、メー・ソット市長をはじめとする地元経済界から、国境付近の開発計画に対するADBの援助を強く要請する声があがった、と報道している。この計画にはメー・ソットとビルマの首都ラングーンを結ぶ全長420キロの道路建設も含まれており、関係者は同計画がビルマで多くの雇用を創出し、ビルマからタイへの「不法就労」者の流入を防ぐと語っている。ADB代表団のグラハム・ジャクソンは、「ビルマ国内の人権侵害や麻薬の問題がADBの援助を制限している」と語ったとされている。詳しくは、以下の情報をご覧ください。

- ・ メコン・ウォッチ (<http://www.jca.apc.org/mekongwatch/>) [日本語・英語]
- ・ The Myanmar Times (ビルマ政府系新聞=<http://www.myanmar.com/myanmartimes/>) 特に7月16-22日号、[英語]
- ・ Bangkok Post (<http://www.bangkokpostnet/>) 特に9月16日号、[英語]
- ・ ビルマ民主化情報 (<http://www.jca.apc.org/kotetu/burma/>) [日本語]

2) 大メコン圏開発構想

上記のタイ・ビルマ幹線道路建設にも見られるように、ADBの対ビルマ援助は、ADBが1990年代初頭に打ち出した「大メコン圏開発構想」に引きずられる形で本格化してゆくのだろう。この構想は、ビルマ・カンボジア・ラオス・タイ・ベトナム・中国南部（雲南）のメコン河流域国間で、交通・エネルギーなどの基盤整備や観光産業の振興を共同で進めていこうという計画である。現在、流域国政府は様々な組み合わせで会談を行い、この構想を具体化させようとしている。

おりしも、大メコン圏の一部をなす中国のWTO（世界貿易機関）加盟が実現の運びとなった。11月15日付タイ『ネーション』紙は、この件に関連させて最近のメコン河流

域開発について、以下の報道を行なっている。

「国境間を結ぶ高速道路建設の推進」：タイ・中国両政府とアジア開発銀行（ADB）は、中国政府の世界貿易機関（WTO）加盟後に増加が予想される貿易活動を促進するために、タイ・ラオス・クンミン（中国南部）を結ぶ高速道路の建設を急ぐ。この建設計画は、東南アジア諸国連合（ASEAN）-中国間の自由貿易の準備にも貢献することになる。

タイ政府の Phongpanu Sawetron 財務省副報道官が語ったところによると、タイ・中国両政府と ADB の代表は、昨日（11 月 14 日）総額 1 億 400 万米ドル（46 億バーツ）の高速道路建設計画に関してラオス政府への援助を三ヶ国で均等に分割することで同意した。Phongpanu 副報道官はまた、Somkid Jatusripitak 財務大臣が援助パッケージの条件などを内閣に提出し最終的な承認を受けることになる、と述べた。

・ The Nation (<http://www.nationmultimedia.com/>) [英語]

3) サムットプラカン県汚水処理施設建設：調査をめくって試される ADB の力量

タイ・サムットプラカン県汚水処理施設は、ADB（2 億 3000 万ドル）と日本国際協力銀行（JBIC、70 億円）の協調融資によって建設が進行している。建設に反対する現地住民は、計画推進の過程で ADB に政策違反があったとして、ADB が持つ政策違反調査機関（インスペクション機能）に提訴、7 月にインスペクション機能が活動を開始した。ところが、インスペクションのメンバー 3 名による現地調査をタイ政府（公害管理局）が拒否し、ADB の理事が説得のためにタイを訪れたが、これも功を奏さず。ADB 史上初のインスペクション機能は頓挫したままである。

NGO の間からは、千野総裁自らがタイ政府の説得にあたり、また理事会がタイ政府に対する ADB の同計画向け融資を停止すべきであるとの声があがっている。

・ メコン・ウォッチ (<http://www.jca.apc.org/mekongwatch/>) [日本語・英語]

・ Bank Information Center (<http://www.bicusa.org/>) [英語]

・ ADB (<http://www.adb.org/>) [英語]

4) 第3回 ADB - JNGO 協議会

日本の NGO (JNGO) は、これまで二度にわたり ADB との協議会を東京などで開催し、ADB のアカウントビリティ（説明責任）や情報公開政策についての議論を行ってきた。第三回目の開催については ADB 側が積極的で、マニラ本部からスタッフが来日し、新設の NGO センターに関する情報提供などが行なわれる模様。NGO 側からも個別プロジェクトに関する質問・意見が出される予定である。

詳細は、環境持続社会研究センター（JACSES=VZRO2520@nifty.ne.jp）まで。

☆☆☆☆活動紹介・参加報告☆☆☆☆

FNAが行なっている活動の紹介や、他団体の活動への参加報告です。

1) 英文資料を読む会(「しょうどく会」)

田平佳子(たひら・よしこ=運営委員)

9月29日、しょうどく会特別編「国際協力英語はこう読む!」をプロ通訳者、そしてFNA 会員でもある池田愛美さんをお迎えして開催しました。タイの NGO・TERRA (Towards Ecological Recovery and Regional Alliance=環境回復と地域連合を目指す活動) から FNA に届いた「サムットプラカン県汚水処理施設建設プロジェクトへの融資の停止を求める ADB 千野総裁宛て請願書」と、その請願書に添付されていた署名依頼のメールを読み、そのメールへの返事も書いてみました。その後、参加者から出された英語の勉強法などに関する質問に池田さんがていねいに答えて下さいました。

以下は、千野総裁宛て請願書の一文です。

We, the undersigned Thai and international organizations, call for the Bank to immediately halt loan disbursements for the Samut Prakarn Wastewater Management Project in Thailand before the Bank's Inspection Panel begins its investigation in early September 2001.

- call for = ...を要求する
- immediately = すぐに
- halt loan disbursements = 融資の停止

この文章がすぐに理解できた方もそうでなかった方も、次回のしょうどく会へのご参加をお待ちしています! 詳細は担当の田平まで。

なお、この請願書は FNA も含めたタイ国内外約 20 団体が署名し、9月5日に千野総裁へ提出されました。

2) 地域の課題と結ぶ:「瀕死の海からの証言~諫早・川辺川シンポ」参加報告

高木英行(たかき・ひでゆき=運営委員、川辺川を守る県民の会会員)

「先祖代々受け継いできたこの宝の海を、子々孫々にまで守り伝える責務がわれわれ漁民にはあるとです。」

必死に有明海・不知火海の現状を訴える漁民のみなさんの言葉には、すさまじいまでの説得力がありました。

去る6月23日「瀕死の海からの証言:有明海・諫早湾~不知火海・球磨川の漁民たち」と題したシンポジウムが開催され、ゲストとして有明海・不知火海の漁師やノリ養殖業者

のみなさん、川辺川の漁師の方々、熊本学園大学の原田正純さんをはじめとする専門家の方々合わせて7名、参加者約160名が集いました（主催はWWF（世界自然保護基金）ジャパン、諫早干潟緊急救済東京事務所及び子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会のメンバーによって立ち上げられた諫早干潟・川辺川シンポ実行委員会）。

九州の福岡・佐賀・長崎・熊本県に囲まれた有明海、その西側に位置する諫早湾が干拓事業のために、「ギロチン」と呼ばれる全長7kmの潮受け堤防によって仕切られたのは1997年4月のことでした。これはまた、有明海の干潟の12~14%、日本全国の干潟の約6%が失われた瞬間でもありました。広大な湾と干潟の消滅は、ノリ養殖だけではなく、魚類やアサリ等の貝類にも多大な影響を与え、有明海の漁業は壊滅的な打撃を受けることになりました。

「ノリの不作等には諫早湾干拓のみが関わっているわけではなく、また干拓事業の影響も許容範囲内である」と行政側は主張しているそうですが、長年にわたって毎日海を見て、海と接してきた漁民のみなさんの言葉、それを支持する専門家の方々のデータからは、干拓事業の影響の大きさと失われたものの多さが痛いほど伝わってきました。彼らは必死に訴えます。干拓事業完成後に残されるのは、「利用されない（出来ない）農地」、「魚もノリも取れない有明海」、そして「膨大な借金」でしかない。

この有明海の南に位置するのが不知火海です。不知火海に注ぐ唯一の大河川である球磨川最大の支流であり、水質日本一にも選ばれたことがある清流・川辺川における巨大なダム建設は、鮎を中心とする球磨川の漁業だけではなく、不知火海へも多大な影響を与えようとしています。

目的がすでに失われたにもかかわらず継続され、環境だけではなく、そこに住む人々の生活、人間関係そして文化すら破壊してしまう事業、無尽蔵に注ぎ込まれる税金、それらを生み出し機能不全に陥った行政システム。九州における諫早湾干拓と川辺川ダム建設事業は、以上のような数々の問題点を抱える無駄な公共事業の典型例でもあります。

「今ならまだ間に合う」、「私たちのような思いを他の漁民のみなさんには絶対にさせたくない」と、川辺川では最後の砦である球磨川漁協の必死の戦いが続いています。諫早湾でも、「今水門を開ければ海は再生する」と確信する漁民のみなさんの懸命な活動が続いています。彼らは私たちの応援を、今必要としています。知ること、出来る範囲で動くこと。あたりまえのようですが、それが私たちに出来る彼らへの一番の応援だと思います。

下記の本に、今回のシンポジウムの内容も含め、有明・不知火海・川辺川のことを詳しく書かれています。お勧めです。

『よみがえれ！宝の海有明海・諫早湾～不知火海・球磨川の漁民たち』（諫早干潟と川辺川ダムから海を考える会著、岩波ブックレット）

また、川辺川を守る県民の会（<http://kawabe.technologic.co.jp/>）では、「鮎を食べる川辺川を守ろう！」と題した「尺鮎トラスト」をはじめ様々な活動を展開しています。みなさんの賛同とご支援をお待ちしています。

☆☆☆☆★事務局から☆☆☆☆★

事務局からの報告です。今回は活動費捻出のために行った物品販売について報告します。

まつりアミカス (10月27・28日)・地球市民どんたく (11月10・11日) あすばるフェスタ (11月23・24・25日) 参加報告

田平佳子 (たびら・よしこ)

FNAは、福岡市や県の女性センターまた福岡市国際交流協会の主催するイベントで「アジア・グッズ・マーケット～いろいろな形の国際協力～」と題して、東南アジアで女性の自立を支援しているNGOが扱っている商品などの販売と活動紹介の展示を行いました。

「地球どんたく」では「国際協力オークション」という企画があり、FNAもタイ・グッズを競売にかけました。300円からコールがスタートし、見事1,500円で落札！（お金は活動資金としてFNAにいただきました）。以下は、参加したメンバーの感想です。

☆「地球どんたく」には初参加でしたが、場所がらか、活動紹介パネルに見入る若い方が多くFNAの活動に興味を示して下さる方もいらっしゃいました。また、「まつりアミカス」で知り合った方がさっそくお手伝いに来て下さったり、こうやって、少しずつ、つながっていくといいなと思います。(T)

★ブースに立ち寄ってくださる方の十人に一人か二人は、FNAの活動内容について、または「どうい
う人がこれを作っているんですか」と尋ねられます。ここでうまく話がつながれば活動をもっと説明でき
ます。さらに「いつもはどんなことやってるんですか」と質問する方もいます。そこで「しょうどく会」
や「勉強会」の説明をします。今回はビルマ・セミナーの宣伝ができました。やはり、固定メンバーでな
い方でも参加できるイベント（小さなものでも）が常に計画されている状態って、大切なのではないかと
思いました。もう一点、「まつりアミカス」でも「地球どんたく」でもブースに来てくださる方々の大半は
女性（アミカスは当然ですが）。特に女性が、FNAに対して、より興味を持って下さるような企画があれ
ばいいなあと思います。(K)

☆こちらが話せば、結構みなさん聞いてくださいました。話しかけていくことが大切だな～と思います。
「まつりアミカス」でもJET Teacherの方がビルマ・フォーラムに関心を持って下さったり、「地球どん
たく」ではAMDAの研修生としてマンガレー近郊で5ヶ月活動してきた方とお会いできました。また、
アミカスで本紙をお持ち帰りになった方から、さっそく「手伝いたい」とのありがたいお申し出もいた
だきました。大きな収穫だと思います。あと、気軽に手伝ってもらえること（今回のバザーやニュース・レ
ターの発送作業など）の設定や連絡も大切にしなければいけないと思いました。(KK)

★昨年に続き2度目の参加となるあすばるフェスタでもたくさんの方に立ち寄っていただきました。昨
年購入下さった品物を今も大切に使用して下さっている方ともお話しでき、大変ありがたかったです。あり
がとうございました。

☆お手伝いしてくれたDくん、Sくん、Kさん、Tさんおつかれさまでした。おかげで、予想以上の売
上が出ました。ほんとうにありがとうございました!!! (K)

☆☆☆☆いっしょに活動しませんか？☆☆☆☆

FNA への入会のご案内

ADB 福岡 NGO フォーラム (FNA) では会員を募集しています。年会費は以下の通りです (いずれも一口)。

- ・ 正会員：5000 円、学生会員：3000 円
- ・ 購読会員：2000 円

入会金は不要です。入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先 (電話・ファクス・e メールアドレスなど) を事務局にご連絡下さい。年会費は、現金書留で送付するか、または、次の口座に振込をお願いします。

郵便振替 01720-9-99885「ADB 福岡 NGO フォーラム」

西日本銀行 天神北支店 普通口座 0369343「ADB 福岡 NGO フォーラム 楠原圭子」

FNA の活動への参加呼びかけ

FNA では様々な企画への参加者とともに、運営にたずさわって下さるボランティアを募集しています。イベントの企画・運営、フリーマーケットでの物品販売、ニュース・レターの編集・発行、翻訳、運営委員会への出席などの活動を通して、FNA だけではなく日本やアジアの NGO の最新動向も分かります。是非どうぞ！

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は、下記までお願いします。

〒815-0071 福岡市南区平和 1-6-1 福岡 NPO 共同事務所「びおとーぶ」内

ADB 福岡 NGO フォーラム (FNA)

電話・ファクス：092-526-9620、eメール：biochan@lily.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253

「オープン・アカウント」とは？

英語の「アカウント」には二つの意味があって、一つは「銀行口座」ですが、もう一つは「アカウントビリティー」の「アカウント」で、「説明」です。したがって「オープン・アカウント」は「開設された口座」と「オープンな説明」とのかけことばになっています。

私たちが ADB という公的金融機関を相手にアカウントビリティーを求めていく目的で FNA の活動を始めたことから、ニュース・レターにこの名称を使うことになりました。ADB が口座開設 (お金) にだけ腐心するのではなく、説明責任を果たす機関になってほしいと思います。

オープン・アカウント第9号 (発行：2001年12月8日)

編集発行責任：アジア開発銀行 (ADB) 福岡 NGO フォーラム (FNA) 運営委員会

編集：土井利率、土肥勲嗣 印刷・発送：神崎尚美、田平佳子、土肥勲嗣